



北海道一斉海岸調査 2011

期間:2011年4月1~30日

日本野鳥の会オホーツク
WBSJ-Okhotsk

はじめに

2006年の春、世界自然遺産登録地・知床を中心とした海岸に、真っ黒な重油に汚染され無惨な姿となった、エトロフウミスズメやハシブトウミガラスなど多数の海鳥の死体が漂着しているのが見つかりました。その数、実に5,600羽（当会の集計による）。

この未曾有の惨事を受け、「オホーツク海沿岸全域での漂着調査が必要」との声が強まり、全道から多くのボランティアが集まって調査が実施されました。この動きはオホーツクのみならず、稚内から根釧地域にも広がり、最終的には185名もの人々が参加しての「道東・道北海岸一斉調査」という、これまでにない、非常にスケールの大きなものとなりました。

数多くの有志が集ったこの調査によって様々な情報が得られましたが、5,600もの命が、いつ、どこで、どうして奪われることとなったのか、その解明には至らず、残念ながらいまだ「原因不明」とされています。

しかしながら、この調査は決して無駄ではありませんでした。今回の調査をきっかけに、油流出事故発生などの緊急時はもちろん、何より「平時のデータをしっかりと取っておく」ことの重要性についての理解が深まりました。そして、「これを続けよう」という声が自然発生的に沸き上がったのです。

この「海岸調査」は、体制や方法を現実に即した無理のないものに修正しながら、07、08、09、10年と続けて実施されました。道内全域を調査対象とし、各地の有志が力を結集し、貴重なデータが収集されました。

今年、2011年も一斉海岸調査を実施します。調査方法は基本的に昨年までと同様です。詳しくは、以下に挙げる「調査要領」等の資料をお読み下さい。

身近な海のことを知ることが、身近な海とそこに棲む生き物を守ることに繋がります。考えるだけでは何も変わりません。一年に一度でも、まずは行動を。

基本的な考え方

《身近な海と海鳥のために》

当初は知床の件があったため、オホーツク沿岸域全体を調査することを一義的な目標として遠路はるばる集まって頂きま

したが、現在は「地元の海は地元住民が守る」ことをテーマに、それぞれ自分の地域や、思い入れのある海岸を見回って頂いています。対象は、「北海道全域」とします。なお、油汚染問題は必ずしも海域に限ったことではありませんが、この調査は対象を海岸に絞らせて頂きます。ご了承下さい。

《実施内容は各自が決める》

基本的な調査方法や、調査に使用する野帳や図面等は統一しますが、「いつ、どこで、誰が・・・」といった基本的な事項については、参加者ご自身で自由に設定して頂くこととしました。こちら側で調整は致しません。「一斉調査日」は特に設けません。各自、4月1～30日の間に一回以上実施して頂ければ結構です（複数回でももちろん歓迎）。

《バードウォッチャーによる調査》

当初は「可能な方のみ」沿岸性鳥類のカウント調査を行って頂きましたが、現在は「カウント調査は原則実施」としています。このため、複数人で実施される場合は、必ず中に一人は野鳥観察経験者（基本的な海鳥の識別ができる人）が加わるようにして下さい。お一人で実施される場合は、ご本人が野鳥観察経験者であることが前提となります。未経験者の方は、経験者の方と一緒に調査して下さい。経験者の方も、野外識別だけでなく、落ちている羽や骨から種の同定ができるようになる・・・など、目標を高く設定し、実習を兼ねた場としてさらなるスキル向上に努めて下さい。もちろん、野外識別力の向上は、海岸調査の精度向上に直接的に寄与すると考えておりますので、より高い識別力を獲得できるよう、各自積極的に取り組んでください。毎年このような調査を続けることで、ゆくゆくは海岸調査のエキスパートが道内各地にいるという状況を目指したいと思っています。お互い、頑張りましょう。

調査方法

＜まず、調査要領をご確認下さい＞

い＞

[【調査要領（PDFファイル：326KB）】](#)

＜図面や野帳の記入例＞

下の記入例を参考にして下さい。

それぞれ、画像をクリックすると拡大版が開きます。

ウンロードできます



<調査図面（地図）>

[【北海道立地質研究所】](#)

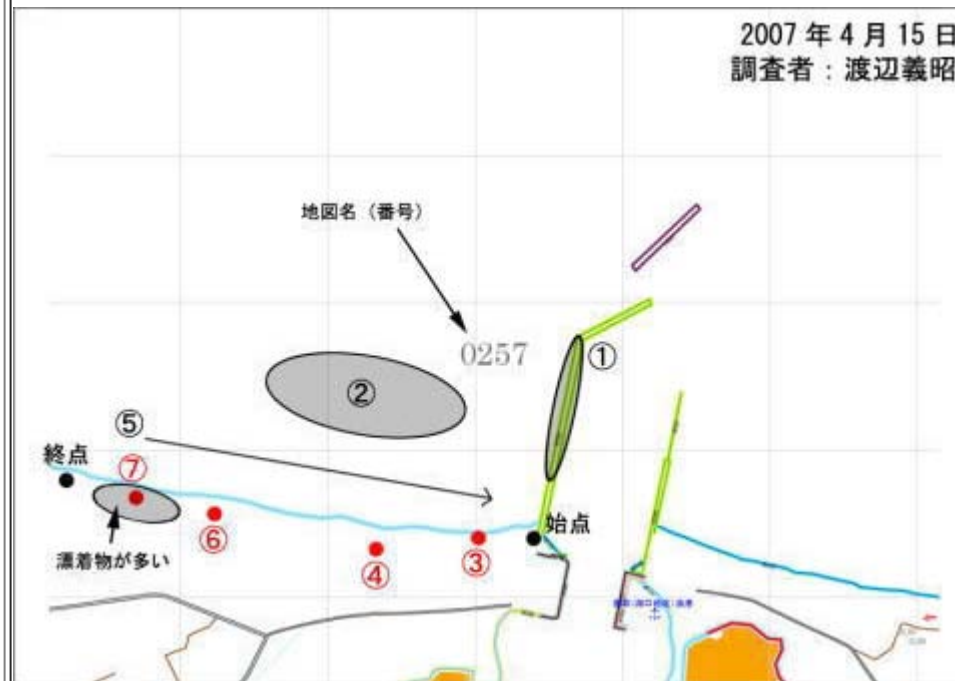
ページ下部にある、「PDF版
北海道海岸環境情報図
ver.1.06 (32.9MB)」をダウ
ンロードして、調査に必要な
箇所の図面をプリントアウト
してご使用下さい。

ナローバンド環境の方は、国
土地理院発行の1/25,000や
1/50,000地形図、または環境
省（環境庁）発行の「自然環
境保全基礎調査用メッシュ
マップ（1/50,000）」などを
適宜利用して頂いても結構で
す。

以下のサイトから、調査地域
の地図をプリントアウトして
頂くことも可能です。

[【電子国土ポータル】](#)

【図面記入例】



調査図面はデータ提出の際に必ず添付して
下さい。

<調査野帳（記録用紙）>

[【PDFファイル \(636KB\)】](#)

[【エクセル \(xls\) ファイル \(27KB\)】](#)

電子メールにて結果報告される場合は、エクセルのファイルに必要事項をご記入（現場野帳から転記）の上、送信してください。

調査時に使用した記入済み野帳をスキャン（あるいはデジタルカメラで撮影）するなどしてデジタルデータ化したものをお送りいただいても構いませんが、隅々まで鮮明なものをお送りください。

【野帳記入例】

2006/4/9 記録用紙 (案) 04版

△

海鳥海岸センサス記録用紙 全1枚のうち1枚目

観察者 渡辺義昭 観察日 2007年 4月 15日 観察開始 09時 10分 - 終了 10時 30分 天候 晴れ・無風

海岸名(観察地) 能取湖海岸線 (網走 (島+湖)) 観察者の所属等 (能取湖の経緯が不明)、観察した経緯が明らかである・ほとんども初心者

調査方法 陸上から肉眼、陸上からの航空望遠鏡を併用、陸上からスコープを併用、その他

必須 鳥類目が観察された場合は必須 死体の場合は必須

観察時刻	地点名(番号) / (定点番号)	地名または緯度・経度	種名	個体数(作数)	汚染箇所に出る事象のナンバリング	個体の状態(AMG, AG, FD, OD, PD)	油の付着状況 (H, M, L, N)	死体の種別	その他、気づいた点(鳥に付着している(釣り糸・針・網など) 海岸の汚染状況の有無、海鳥のタイプなど)
09:10	0257/始点								
09:10	0257/①		オオセグロカモメ	10+					生体、異常行動なし
			シロカモメ	2					同上
09:10	0257/②		シノリガモ	20+					同上
			ホオジロガモ	10+					同上
09:20	0257/③		ラミスズメ類	1		OD	N		油の付着なし、種不明 写真 No. IMG4700 ~ 4704
09:35	0257/④		ハシブトウミガラス	1	①	FD	L		油の付着あり、死体回収 写真 No. IMG4705 ~ 4708
09:55	0257/⑤		オフロワシ	成鳥1					上空通過
10:00	0257/⑥		カモメ類	1	②	OD	L		油の付着あり、死体回収 写真 No. IMG4709 ~ 4713
10:15	0257/⑦		漁付船ロープ	1					直径約5cm長さ約5m 油付着部を切り取り回収 写真 No. IMG4714 ~ 4719
10:30	0257/終点								

個体の状態 AMG:Alive Not Captured(生きている捕獲せず)、AG:Alive Captured(生きている捕獲)、FD:Fresh Dead(新鮮な死体)、OD:Old Dead(古い死体)、PD:Part of Dead(食害を受けた尾羽の一部)

油の付着状況 H:Heavy(全身の2/3以上油が付着)、M:Medium(1/3~2/3程度付着)、L:Light(1/3以下の付着)、N:No Oil(油付着が無く、油汚染以外の死因が考えられる)

主な海岸タイプ 網走(1A)、道東(2A)、網走(2A)、稚内(2A)、稚内(2A)、稚内(2A)、稚内(2A)、稚内(2A)、稚内(2A)

<撮影例>

海鳥の死体等の漂着物を発見した場合は、以下のように様々な角度で撮影して下さい。

クリックすると大きな画像が表示されます。

【撮影例：1】



【撮影例：2】



【撮影例：3】

【撮影例：4】



<注意事項>

- 調査結果は4月末日までに必ずお送り下さい。やむを得ない事情で遅れる場合はその旨ご連絡下さい。ご協力をお願い致します。
- 当会では調査に関する様々な事前調整・連絡等は原則として行いません。各自、事故等のないよう、くれぐれも注意して調査を実施してください。
- 調査に関わる一切の責任は調査者各自にあります。万一、事故や不都合等があっても責任は負えませんので、あらかじめご了承下さい。
- 鳥インフルエンザ等の感染症の拡散防止のため、死体回収等は当面行いません。ご注意ください。また、死体を発見した際の対応等は「調査要領」に記載してありますので、ご参照ください。

各種資料/リンク

[【2006年4月9日オホーツク海岸】](#)

[【北海道一斉海岸調査](#)

[【北海道一斉海岸調査
2008】](#)

[【北海道一斉海岸調査2009】](#)

一斉調査】 (PDFファイル 15.5MB)	2007】 (PDFファイル 9.41MB)	(PDFファイル 28MB)	(PDFファイル 1.74MB)
【北海道一斉海岸調査2010】 (PDFファイル 6.21MB)	2006年春に発生した 北海道オホーツク海沿岸部 における 油汚染海鳥大量漂着事件の 概要 (PDFファイル 2.20MB)	—	当会（当時“支部”）が独自に鑑定を 依頼した 米国カリフォルニア州政府機関 (OSPR) による 知床に漂着した油の鑑定結果 (PDFファイル 1.69MB)

[日本野鳥の会オホーツク：油汚染問題専用ブログ](#)

2006年春、知床の事件をきっかけに立ち上げたブログです。私どもの様々な活動や国内の油流出事故等について、情報を発信し続けています。

[知床半島沿岸・油汚染海鳥漂着の経過について](#)

斜里町が2006年の事件について情報をまとめているページです。

[OSPR](#)

知床に漂着した油の成分を無償で分析してくれた米国カリフォルニア州政府の機関です。

[OWCN](#)

上記OSPRへ仲介していただいた米国のネットワークです。

「油汚染等の海洋生態系への影響評価につながる海域－陸域統合型GISの構築」についての情報

- [北海道立地質研究所](#)
- [日本生態学会第56回大会講演要旨](#)
- [NPO法人エンヴィジョン環境保全事務所](#)



日本野鳥の会オホーツク公式Webサイト内、「海岸調査2011」より転載

北海道一斉海岸調査 2011

調査要領



1. 調査に必要なもの

【調査海岸の図面（地図）】

以下からダウンロードしてご使用下さい。

<http://www.gsh.pref.hokkaido.jp/download/shore/index.html>

北海道海岸環境情報図 ver1.06（PDF版）〔ZIP形式圧縮ファイル：32.9MB〕

取りまとめの際の労力軽減のため、図面や野帳はできる限り統一したいと考えております。ご協力をお願い致します。ただし、ナローバンド環境等でダウンロードが困難な方は、国土地理院発行の1/25,000や1/50,000の地形図、または環境省（環境庁）発行の自然環境保全基礎調査用メッシュマップ（1/50,000）等を使用されても構いません。

地図への記入例は以下からご覧頂けます。念のため、プリントして調査に持参されると良いでしょう。

記入例：<http://www.wbsj-okhotsk.org/beachcensus/cbs.htm>

【調査野帳】

調査野帳も統一致しますので、ご協力下さい。

以下からダウンロードしてご使用下さい。

<http://www.wbsj-okhotsk.org/beachcensus/cbs.htm>

記入例はダウンロードして頂くPDFファイルに付記されているほか、上のページからもご覧頂けます。

一見して難しそうですが、すぐに慣れますので大丈夫です。

「実習」というような心構えで、焦らずじっくりやってみてください。

記入方法が分からない場合は、余白や裏面などを利用して、可能な限り詳細な情報を残し、「自分以外の第三者が読んでも分かるように」を心がけて下さるよう、お願い致します。

【メモ帳・筆記用具】

慣れている方は、調査時は携帯に優れた小型の野帳に記入し、終了後に正式な野帳に必要な項目を書き写して提出する、というやり方でも構いません。

無理なく続けられるよう、ご自身のやりやすいやり方で行ってください。

【双眼鏡、望遠鏡、カウンター等の観察用具】

今回から漂着物調査と同時に簡単なカウント調査も行って頂きます。望遠鏡は必要に応じて使用して下さい。カウンターは必携ではありませんが、あると便利です。

【油性マジックペン】

何らかの回収物があった場合に、袋の外側に「回収日」、「回収場所（例：能取一③）」、「回収者氏名」を明記するために使います。

袋に直接書かずに、“荷札”などを利用する方法もあります。必要な情報が分かればどちらでも構いません。ただし、必ず油性のペンを使用してください。

【アルミホイル】

原則として油サンプルの収集は行いませんが、もし独自に油をサンプリングされる場合、油が直接ビニール袋に触れてしまうと成分が変化してしまい、分析に支障を来す恐れがあるため、まずアルミホイルにしっかり包んでから袋に収納するようにしてください。一般的な家庭用のアルミホイルで構いません。

【ビニール等の袋】

レジ袋や家庭用ゴミ袋でも構いませんが、ジッパー付きの冷凍保存用バッグ（いわゆる“ジップロック”）も各サイズ携帯されると便利です。

【カメラ】

調査地の写真（環境写真、調査風景写真）は不要ですが、鳥獣の死体や油関係の漂着物等、重要な発見があった場合には必ず様々な角度から写真を撮影してください。電子メールでの簡便なやりとりを念頭に置いているため、できればデジタルカメラを使用して下さい。PCモード UXGA 以上で撮影できるものであれば携帯電話内蔵のカメラでも構いません。フィルムカメラの場合は恐れ入りますがスキャンして下さい。ネガやプリントはお預かりできませんのでご了承下さい。撮影例はこちらからご覧頂けます。

<http://www.wbsj-okhotsk.org/beachcensus/cbs.htm>

【ゴム手袋・マスク】

死体に触れる際は必ず手袋・マスクを着用して下さい。手袋は薄手の使い捨てタイプのもので便利です。

2. 調査マニュアル

【調査期間】

調査期間は2011年4月1日～30日までの一ヶ月間とします。

一斉調査日は特に設けません。この期間内に一回以上、調査を実施して下さい。

期間内に複数回実施できる場合は、可能であれば場所を変更し、より広域をカバーして下さい。お願い致します。ただし、広域の調査が困難な場合は同じ場所を複数回調査されても構いません。調査時間の制限はありません。ご自分のペースで、焦らず、慌てず、じっくりと行ってください。

【調査人員】

調査員は何名でも構いません。

「調査」という名前に縛られず、地域のお仲間やご家族で気軽に海岸散歩を楽しみながら実施して頂ければと思います。

【調査範囲・距離】

調査範囲や距離は特に決めません。何mでも何kmでも構いません。

ご自分でアクセスしやすい場所を決め、無理のない方法で実施してください。

ただし、調査した区間が確実に分かるよう、図面上にはっきりと示してください。

特に漂着物等の発見がなくとも調査区間を明記の上、ご報告下さい。

海岸を歩く方法での調査を基本と考えていますが、地形的に歩くことが困難な場所、あるいは河口や港湾部などについては、定点を設けて周辺の漂着物の様子や沿岸性鳥類のカウントを実施してください。

【調査の方法】

海岸線をジグザグに歩いて、次のような漂着物を探し、見つけたら必要事項を野帳に記入し、撮影を行います。

- ・ 海鳥の死体（油の付着に関わらず）
- ・ オイルボール（塊～ムース状など様々な種類があります）
- ・ 油が付着したロープや漁網
- ・ その他特筆すべき漂着物

また同時に、周辺の海上・海岸にいる鳥の種類とおおよその数を調べます。

調査中に出現したものを随時記録していく方法だと、煩雑になってしまいがちです。このため、始点と終点あるいはそのどちらかなど、一度または二度カウントを行うのがベターです。

ただし、この場合も途中で大きな群れが出現するなど特筆すべき確認があった場合は、その都度、追加で記録するようにして下さい。

【鳥の死体やオイルボールなどの漂着物を発見した場合】

まず、必要な情報を野帳に記入し、様々な角度から撮影を行います。

鳥の死体の場合、油の付着に関わらず、必ず撮影を行って下さい。

油の付着があるかどうか、様々な角度から詳細に観察し（死体を扱う場合は必ずゴム手やマスクなどを装着して下さい）、付着が認められた場合はそれに関わる部分について野帳に記入して下さい（食害の有無や個体の状態など：記入例参照）。

【回収（サンプリング）についての考え方】

鳥インフルエンザ等の感染症の拡散を防ぐため、当面の間、野鳥の死体は死因（交通事故等）が明らかな場合を除いて回収しないこととします。死体にはなるべく触れないようにし、やむを得ず触れる場合は使い捨ての手袋を着用し、作業後の消毒を万全にするようお願い致します。

~~死体の回収（油のサンプリング含む）を行うかどうかは現場判断とします。以下を参考に、各自、適宜判断して下さい。~~

- 腐敗や損壊の進んだものは無理に回収せず、自然に分解を委ねたいと思います。死体もある種の生物にとっては重要な食料ですので、そのまま放置するのが最良である場合も多々あります。
- 油が付着しているものについては捕食者による二次被害防止のため穴を掘って埋めるなどして下さい。ただし、死体が大量に漂着していたり、油の漂着が見られる場合はまず地元行政や警察・海上保安庁等への通報を優先し、現場保全に努めてください（【緊急時の判断について】参照）。
- 見つかった油を逐一採取して分析するのが理想的ではありますが、残念ながら、こういった民間調査によってサンプリングされた油を分析する道筋が確立しておらず、私ども個人では保管するにも限度があるため、当面の間、各調査員の皆様からの油サンプルの収集は原則として行いません。甚だ不本意ではありますが、熟慮の上の結論としてご理解下さい。
- サンプルの収集は見合わせますが、今後分析への道筋がついた場合のために個人として少しでもサンプルを保管しておきたいとお考えの方もおられるかと思えます（私どもとりまとめ側も個人としてのサンプリングは続けていく所存です）。“分析用のサンプル”と聞くと、死体を丸ごと保存しなければならないような錯覚を受けますが、実際には「（鳥の場合）油が付着した羽が数枚程度」あれば分析が可能です。念のため、「数枚程度」よりも若干多い程度の量をアルミホイルに包んだ上で冷凍保存（可能であれば業務用冷凍庫）することをお勧めします。採取日や採取地といった基本的な情報は袋に記入すると同時に、紙に鉛筆で書いて袋の中に入れておくと万全です。ご参考になさって下さい。
- ~~まれな種類や新鮮な死体は貴重な資料になります。博物館や研究者の方々へご~~

提供し、様々な調査研究の資料として活用して頂きたいと思っております。ご自身で対応が可能な方は適宜お願い致します。私どもでも必要に応じて仲介致しますので、ご連絡下さい。回収はできるが保管が難しいという場合は、厳重に梱包の上、クール便にて下記川崎か渡辺まで取り急ぎお送り下さい（要事前連絡）。その場合の費用については恐縮ですが各自ご負担下さい。

- 現在、以下の鳥種については過去の例などから「鳥インフルエンザの感染リスクの高い種」とされており、今季は道内全てのエリアで「死亡個体1羽から鳥インフルエンザウイルスの検査を行う種」と定められています。このため、以下の種類の死体を見つけた場合は、最寄りの（総合）振興局（次項参照）や各市町村、警察等に発見場所などを伝えるようにして下さい。また、以下のリストにない種でも、同じ場所で複数羽が同時に死んでいる状況を確認した場合は念のため通報するようにして下さい（※が付記されている種は環境省へ通報してください）。

カイツブリ科	カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ
ウ科	カワウ
サギ科	ゴイサギ、アマサギ、コサギ、ダイサギ、アオサギ
カモ科	シジュウカラガン（※）、マガン、コブハクチョウ、コハクチョウ、オオハクチョウ、オシドリ、マガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ
タカ科	オオタカ（※）、ノスリ、クマタカ（※）、サシバ、チュウヒ
ハヤブサ科	チョウゲンボウ、ハヤブサ（※）
クイナ科	バン、オオバン
カモメ科	ユリカモメ
フクロウ科	ワシミミズク（※）、コノハズク
カラス科	ミヤマガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス

- チシマウガラス、コウノトリ、シジュウカラガン、オジロワシ、オオワシ、オオタカ、クマタカ、イヌワシ、ハヤブサ、タンチョウ、カラフトアオアシシギ、ウミガラス、エトピリカ、ワシミミズク、シマフクロウは「絶滅のおそれがある野生動植物の種の保存に関する法律」により希少野生動物に指定されている種です。調査中にこれらの死体を発見した場合は、死体の状態に関わらず、可能な限り回収して下さい。その場での回収が難しい場合は、波による再流出を防ぐため高い位置に移動した上で、後日回収しやすいよう、分かりやすい目印を付け、環境省北海道地方環境事務所（TEL：011-251-8700）、釧路自然環境事務所（TEL：0154-32-7500）、あるいは最寄りの自然保護官事務所に連絡してください。なお、これらの生体を保護（弱っている個体を確認したが保護できな

い場合も含めて)するなど、緊急時であっても、土日祝祭日は行政機関と連絡が取れないことがあります。この場合は最寄りの警察などに相談して下さい。

【保護が必要と思われる鳥獣の生体を発見した場合】

以下の各(総合)振興局の保健環境部環境生活課、または各市町村窓口に連絡して指示を仰いで下さい。ただし、土日等休日是对応できない場合が多いと思いますので、あらかじめ緊急時の持ち込み先などを聞いておくとい良いでしょう。

支庁名	代表電話番号(内線)	直通電話番号
石狩	011-231-4111(34-384)	011-204-5825
渡島	0138-47-9400(2989)	0138-47-9439
檜山	0139-52-6500(2977)	0139-52-6494
後志	0136-23-1300(2977)	0136-23-1354
空知	0126-20-0200(2989)	0126-20-0045
上川	0166-46-5900(2989)	0166-46-5924
留萌	0164-42-8404(2977)	0164-42-8436
宗谷	0162-33-2516(2977)	0162-33-2922
オホーツク	0152-41-0603(2989)	0152-41-0632
胆振	0143-24-9900(2989)	0143-24-9578
日高	0146-22-9030(2977)	0146-22-9254
十勝	0155-26-9005(2989)	0155-26-9031
釧路	0155-43-9100(2989)	0154-43-9155
根室	0153-24-0257(2977)	0153-23-6823

【緊急時の判断について】

緊急通報を含む行政側への連絡等は調査員各自の判断・責任で行って下さい。参考までに、いくつか考えられるケースを以下に挙げておきます。

● 海上に油(油膜)が浮かんでいた場合

→ 海上保安庁(118番)に連絡し、状況を説明して指示を仰いでください。

● 海岸に油や大量の鳥獣の死体、危険物(含ドラム缶)等が漂着していた場合

→ 大量の油が漏れだしているなど、緊急性が認められる場合は警察(110番)に連絡してください。海上保安庁でも対応してくれると思います。

→ 風化しているような古いドラム缶等については、記録は逐一取っておきますが、特に行政へ連絡する必要はないと考えています。各自状況を勘案の上、ご判断下さい。

● クジラやイルカの座礁を発見した場合

→ 以下の「北海道いるか・くじら110番」に連絡して下さい。

「北海道いるか・くじら110番」

専用電話：090-1380-2336

メールで報告する場合（写メール添付可）：kujira110@gmail.com

参考ホームページ：<http://snh.seesaa.net/>

【調査結果について】

今回の調査について、事前の参加申し込み等は不要です。

実施した場合のみ、下記の川崎、渡辺のどちらかまでデータをお送り下さい。

データ提出の締切は2011年4月末日とさせていただきます。

ご協力をお願い致します。

データは次のいずれかの方法でお送り下さい。

諸費用につきましては恐れ入りますが各自ご負担下さい。

「何もいなかった」、「何も漂着していなかった」という情報も非常に重要です。調査を実施された場合は必ずご報告下さるよう、お願い致します。

○ 郵送（含メール便）

調査図面、野帳をお送り下さい。三つ折りでも構いません。

漂着物の写真がある場合はCDにコピーの上、同封して下さい。

○ 電子メール

図面と野帳を150dpi程度でスキャンして頂き、漂着物の写真があればそれとともに電子メールに添付してお送り下さい。

図面と野帳をデジカメで撮影して頂き、細部までしっかり写っていることをご確認の上、画像を送って下さっても結構です。

非常にデータ量が多い場合は「宅ファイル便」などの大容量ファイル送信サービスが便利です。いくつかのファイルを一気に圧縮することで、一度に数多くのファイルを送ることも可能です。

参考：「宅ファイル便」 <http://www.filesend.to/>

○ FAX

特に漂着物の確認がなく、画像がない場合は、図面と野帳をFAXでお送り頂いても結構です（川崎まで）。

[送り先・連絡先]

〒099-3452 斜里郡小清水町浜小清水 72-25 川崎康弘

自宅電話（FAX兼）：0152-63-4110 携帯電話：090-3777-6986

電子メール：marlboro@phoenix-c.or.jp

〒093-0033 網走市網走市駒場北 4-1-2 motoN 駒場 223 渡辺義昭
携帯電話：090-6870-9298
電子メール： wakitori@m3.gyao.ne.jp

【調査データの取扱について】

お送り頂いたデータは川崎・渡辺がとりまとめを行い、できる限り早期に集計を行い、集計結果を「速報」として日本野鳥の会オホーツク公式 Web サイト（<http://www.wbsj-okhotsk.org/>）および油問題専用ブログ（<http://blog.livedoor.jp/abura060303/>）にて公開致します。その後、2012年3月をめぐりに報告書をまとめ、Web 経由で配布させていただきます。印刷物での配布は現在のところ考えておりませんので、ご了承下さい。
報告書には調査に参加頂いた皆様のご氏名を記させていただきます（連絡先等は掲載致しません）。ご都合が悪い方はその旨、あらかじめご連絡下さい。
調査データは要請に応じて様々な調査研究に活用して頂くよう適宜ご提供して参りたいと考えております。調査データの取扱につきましてはとりまとめ役にご一任下さるよう、あらかじめご了承下さい。

【その他】

調査等、一連の活動については各自の責任で行い、事故等のないようくれぐれもご注意下さい。万が一、事故等があっても一切責任は負えませんのでご了承下さい。

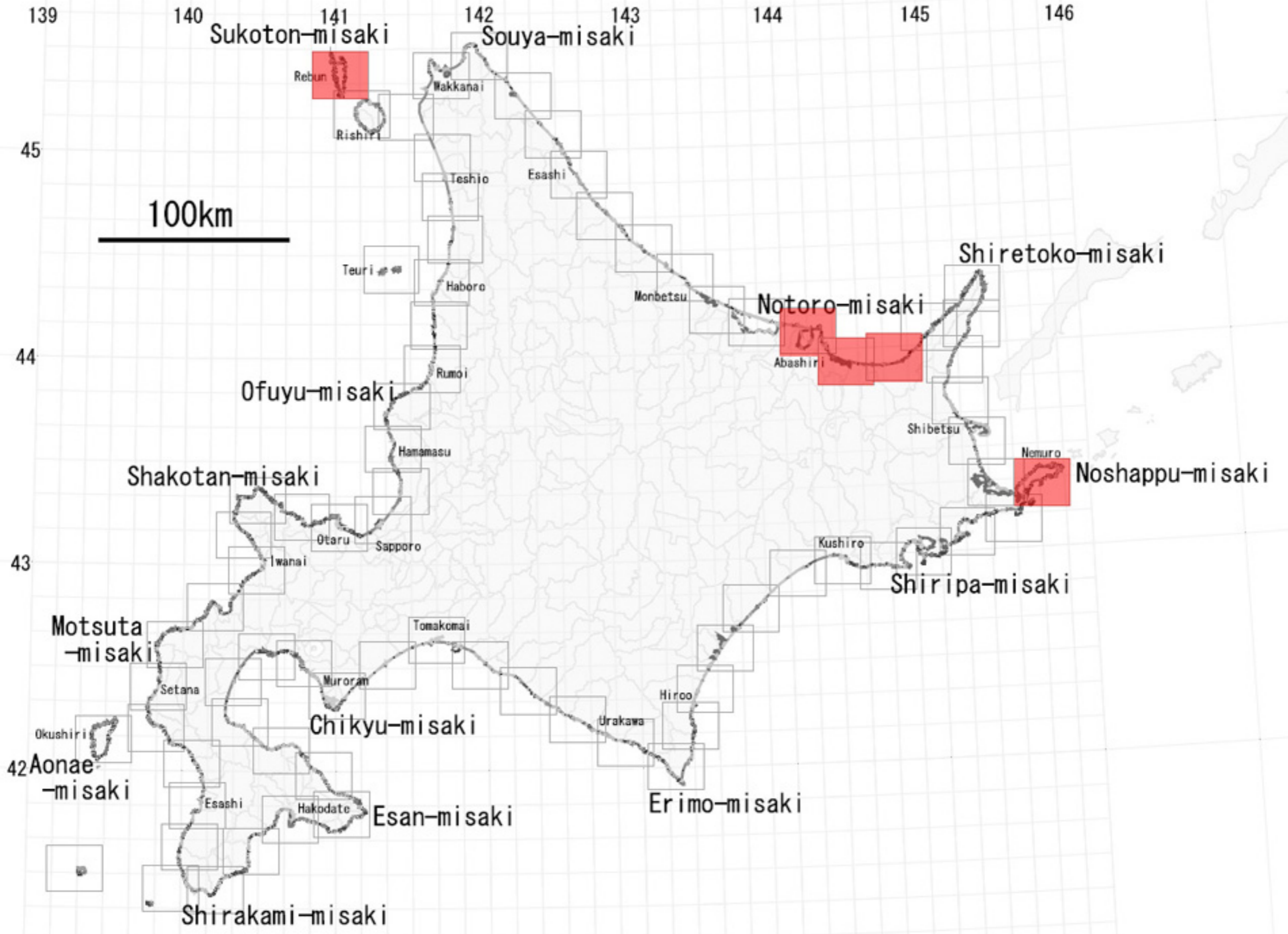
調 査 結 果

調査実施地区

野帳

図面

写真



海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	渡辺義昭	観察日	2011年4月9日	観察時刻	6:45 ~ 9:10	天候	晴れ
海岸名(市町村)	能取湖湖口左岸(網走市)		観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用	

個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部

油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3~2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない

観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
6:45		257	1	ウミアイサ	150±					
6:45		257	1	シノリガモ	40+					
6:45		257	1	ウミウ	40±					
6:45		257	1	カモメ類	60+					
6:45		257	2	ウ類	50+					
6:45		257	2	カモメ類	30+					
7:40		256	3	ドラム缶	3					古い
8:00		256	4	ドラム缶	1					古い
8:10		256	5	ドラム缶	2					古い

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	渡辺義昭・渡辺恵	観察日	2011年4月14日		観察時刻	9:45 ~ 10:55		天候	晴れ		
海岸名(市町村)		能取湖湖口右岸(網走市)			観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富		調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用		
<small> 個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3~2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない </small>											
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点	
9:45		273	1	オオセグロカモメ	10±						
9:45		273	1	ウミネコ	1						
9:45		273	1	ウミアイサ	50+						
9:45		273	1	シノリガモ	90+						
9:45		273	1	ウミウ	8						
10:06		273	2	シロチドリ	2						
10:43		273	3	ドラム缶	2					古い	

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	舟生憲幸	観察日	2011年4月2日	観察時刻	5:20 ~ 7:00	天候	晴れ
海岸名(市町村)		鱒浦海岸(網走市)		観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上からスコープを使用

個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部

油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3~2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない

観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
5:20	285A	1		ウミアイサ	8					生体、異常行動なし
5:20	285A	1		シノリガモ	21					生体、異常行動なし
5:20	285A	1		オオセグロカモメ	7					生体、異常行動なし
5:20	285A	1		ハシブトガラス	4					生体、異常行動なし
5:20	285A	1		トビ	5					生体、異常行動なし
5:20	285A	1		ハクセキレイ	2					生体、異常行動なし
5:20	285A	1		ゴマフアザラシ	2					生体、異常行動なし
5:20	285A	2		貝類	多					貝類の漂着が多く見られた
5:20	285A	3		種不明骨	1		PD	N		13cmくらい
6:00	285A	4		ウミアイサ	35					生体、異常行動なし
6:00	285A	4		カモメ	8					生体、異常行動なし
6:00	285A	4		オオセグロカモメ	4					生体、異常行動なし
6:00	285A	4		ハシボソガラス	6					生体、異常行動なし
6:00	285A	4		ハクセキレイ	1					生体、異常行動なし
6:00	285A	4		カワラヒワ	1					生体、異常行動なし
6:00	285A	4		トビ	9					生体、異常行動なし
6:00	285A	4		スズメ	2					生体、異常行動なし
6:00	285A	4		ヒメウ	1					生体、異常行動なし
6:00	285A	4		クロガモ	13					生体、異常行動なし
6:10	285A	5		オオハクチョウ	3					生体、異常行動なし。南下。
6:50	286A	6		ウミアイサ	23					生体、異常行動なし
6:50	286A	6		ホオジロガモ	1					生体、異常行動なし
6:50	286A	6		ウミウ	1					生体、異常行動なし
6:50	286A	6		ヒメウ	2					生体、異常行動なし
6:50	286A	6		オオセグロカモメ	2					生体、異常行動なし
6:50	286A	6		トビ	5					生体、異常行動なし
6:50	286A	6		ハシボソガラス	2					生体、異常行動なし
6:50	286A	6		ハクセキレイ	1					生体、異常行動なし

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	渡辺義昭	観察日	2011年4月10日	観察時刻	7:50 ~ 9:15	天候	晴れ
海岸名(市町村)		罇浦海岸(網走市)		観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用

個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部

油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3~2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない

観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
7:50		287A	1	ウミアイサ	22					
8:30		286B	2	ウミアイサ	30±					
8:50		285B	3	トビ	20+					
8:50		285B	3	オジロワシ	3					
9:00		285B	4	オオセグロカモメ	13					

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	渡辺義昭	観察日	2011年4月10日	観察時刻	6:40 ~ 7:40	天候	晴れ
海岸名(市町村)	北浜海岸(網走市)		観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用	

個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部

油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3~2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない

観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
6:40		289A	1	ホオジロガモ	1					
6:40		289A	1	ウミアイサ	2					
6:40		289A	1	オオセグロカモメ	1					

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	川崎康弘	観察日	2011年4月14日	観察時刻	10:00 ~ 12:00	天候	晴れ			
海岸名(市町村)	濤沸湖口～小清水原生花園(小清水町)	観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用					
<small> 個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3～2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない </small>										
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
10:00	289B	1		オオセグロカモメ	2					生体、異常なし
10:00	289B	1		シロカモメ	1					生体、異常なし
10:00	289B	1		ウミネコ	2					生体、異常なし
10:00	289B	1		カワウ	1					生体、異常なし
10:00	289B	1		ホオジロガモ	25					生体、異常なし
10:00	289B	1		ウミアイサ	30					生体、異常なし
10:40	293	2		ドラム缶	1			N		古い
10:53	293	3		ドラム缶	1			N		古い
11:00	293	4		ドラム缶	1			N		古い
11:40	293	5		ハシブトウミガラス	1		PD	N	頭骨～頸骨	
11:58	293	6		ホオジロガモ	3					生体、異常なし
11:58	293	6		ウミアイサ	2					生体、異常なし

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	川崎康弘・川崎里実	観察日	2011年4月5日	観察時刻	10:00 ~ 11:00	天候	晴れ
海岸名(市町村)		浜小清水前浜～小清水原生花園		観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用

個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部

油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3～2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない

観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
10:00	296	1		ビロードキンクロ	4					生体、異常なし
11:00	295	2		ビロードキンクロ	13					生体、異常なし
11:00	295	2		オオセグロカモメ	1					生体、異常なし
11:00	295	2		シロカモメ	1					生体、異常なし
11:00	295	2		シロエリオオハム	2					生体、異常なし
11:00	295	2		ホオジロガモ	1					生体、異常なし
11:00	295	2		クロガモ	2					生体、異常なし

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	小笠原久美子・奥田和子・奥田健次・川崎里実・川崎康弘・多賀憲雄・渡辺 恵	観察日	2011年4月16日	観察時刻	8:38 ~ 10:26	天候	晴れ
海岸名(市町村)	浜小清水前浜(小清水町)	観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富		調査方法	陸上からスコープを使用	

個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部

油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3~2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない

観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
8:40	300	1		ホオジロガモ	1♂					生体、異常なし
8:40	300	1		クロガモ	1♀					生体、異常なし
8:40	300	1		ウミアイサ	1♂					生体、異常なし
8:48	300	2		アザラシ類の骨	1	1	PD	N	上腕骨	
9:00	300	3		ウミガラス類の骨	1	2	PD	N	頭骨	下顎なし、渡辺回収
9:00	300	4		イルカ類の骨	1	3	PD	N	椎骨	
9:08	300	5		ハシブトウミガラスの骨	1	4	PD	N	頭骨	
9:18	300	6		不明鳥類の骨	1	5	PD	N	叉骨	渡辺回収
9:20	300	7		不明鳥類の骨	1	6	PD	N	肩~腕の骨一式	
9:32	300	8		イルカ類の骨	1	7	PD	N	椎骨	小笠原回収
9:39	300	9		不明鳥類の骨	1	8	PD	N	上腕骨	
10:09	300	10		不明鳥類の骨	1		PD	N	足根中足骨	
10:16	300	11		不明鳥類の骨	1	9	PD	N	上腕骨	渡辺回収
10:20	300	12		アザラシ類の骨	1	10	PD	N	上腕骨	

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	川崎康弘・川崎里実	観察日	2011年4月6日	観察時刻	9:55 ~ 11:00	天候	晴れ
海岸名(市町村)	浜小清水前浜～小清水原生花園(小清水町)	観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富		調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用	

個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部

油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3～2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない

観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
9:55	302	1		オオセグロカモメ	2					生体、異常なし
10:30	302	2		オオワシ	1(SA)					生体、異常なし
10:30	302	2		オジロワシ	3(SA)					生体、異常なし
10:48	302	3		ドラム缶	1			N		古く、錆びてボロボロ
11:00	302	4		ホオジロガモ	25					生体、異常なし
11:00	302	4		ウミアイサ	3					生体、異常なし
11:00	302	4		セグロカモメ	2					生体、異常なし
11:00	302	4		オオセグロカモメ	1					生体、異常なし
11:00	302	4		カモメ	4					生体、異常なし
11:00	302	4		ハシブトガラス	1					生体、異常なし
11:00	302	4		ハクセキレイ	1					生体、異常なし
11:00	302	4		オジロワシ	1(SA)					生体、異常なし

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	川崎康弘・川崎里実	観察日	2011年4月13日	観察時刻	10:35 ~ 12:00	天候	晴れのち曇り
海岸名(市町村)	ウエンベツ川河口～止別駅裏(斜里町・小清水町)	観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用		

個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部

油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3～2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない

観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
10:35	304	1		オオセグロカモメ	2					生体、異常なし
10:35	304	1		ミミカイツブリ	4					生体、異常なし
10:35	304	1		ホオジロガモ	2					生体、異常なし
10:35	304	1		クロガモ	2					生体、異常なし
10:35	304	1		ウミアイサ	5					生体、異常なし
10:35	304	1		アカエリカイツブリ	1					生体、異常なし
10:41	304	2		ミズナギドリ類	1		PD	N	羽毛塊	
10:49	304	3		ドラム缶	1			N		古い
10:53	304	4		ドラム缶	1			N		古い
11:26	303	5		ドラム缶	1			N		古い
11:55	303	6		ドラム缶	1			N		古い
12:00	303	7		クロガモ	15					生体、異常なし

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	寺田紋子	観察日	2011年4月10日	観察時刻	13:30 ~ 15:10	天候	晴れ
海岸名(市町村)	斜里町前浜(斜里町)		観察者の熟練度	観察をした経験が何度かある		調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用

個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部

油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3~2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない

観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
13:30	305	1		オオセグロカモメ	5					
13:30	305	1		カモメ	1					
13:30	305	1		ウミネコ	1					
14:03	305	2		カワラヒワ	6					
14:55	306A	3		オオセグロカモメ	7					

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	寺田紋子	観察日	2011年4月26日	観察時刻	11:30 ~ 12:15	天候	晴れ
海岸名(市町村)	斜里前浜(斜里町)		観察者の熟練度	観察をした経験が何度かある		調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用

個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部

油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3~2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない

観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
11:34	306B	1		クロガモ	5					
11:34	306B	1		オオセグロカモメ	5					
11:34	306B	1		ハシボソガラス	1					
11:34	306B	1		ウミアイサ	20+					
11:34	306B	2		オオセグロカモメ	1					
11:34	306B	2		カワラヒフ	1					
11:34	306B	3		トビ	1					
11:34	306B	3		カワラヒフ	1					
11:34	306B	4		ウミネコ	1					
11:34	306B	4		オオセグロカモメ	4					
12:11	307B	5		カワラヒフ	2					
12:11	307B	5		オオセグロカモメ	1					
12:11	307B	5		ハクセキレイ	1					

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	寺田紋子	観察日	2011年4月25日	観察時刻	9:10 ~ 11:10	天候	晴れ
海岸名(市町村)	斜里前浜(斜里町)		観察者の熟練度	観察をした経験が何度かある	調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用	

個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部

油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3~2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない

観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
9:11	307A	1		オオセグロカモメ	2					
9:11	307A	1		シロカモメ	1					
9:11	307A	1		ウミアイサ	50+					
9:11	307A	1		ハクセキレイ	1					
9:11	307A	1		アオジ	1					
9:11	307A	1		カワラヒワ	2					
9:28	307A	2		ヒバリ	2					
9:28	307A	2		カモ類	1		PD		翼、胸骨	
9:36	307A	3		ウミガラス?	1		PD		両翼、胸骨	
10:17	307A	4		ミズナギドリ類	1		PD		翼、胸骨	
10:27	307A	5		ミズナギドリ類	1		PD		頭骨、翼、胸骨、両足	
10:41	308	6		ハシブトウミガラス?	1		FD	L		
11:10	308	7		ミズナギドリ類?	1		PD	不明		
11:32	308	8		ドラム缶	1					ドラム缶
11:35	308	9		ヒバリ	2					
11:35	308	9		ハクセキレイ	1					

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	黒沢信道・黒沢優子 中瀬愛		観察日	2011年4月10日		観察時刻	9:05 ~ 12:25		天候	晴れ			
海岸名(市町村)			友知海岸(根室市)			観察者の熟練度		生物観察の経験が豊富		調査方法		陸上からスコープを使用	
<small> 個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3~2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない </small>													
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点			
9:06	516	1		クロガモ	8					海岸3A			
9:12	516	2		ホオジロガモ	3					海岸3A			
9:12	516	3		クロガモ	53					海岸3A			
9:12	516	4		ウミアイサ	4					海岸3A			
9:12	516	5		オオセグロカモメ	17					海岸3A			
9:12	516	6		クロガモ	81					海岸3A			
9:12	516	7		ウトウ	3					海岸3A			
9:12	516	7		ケイマフリ	1					海岸3A			
9:12	516	7		ウミウ	1					海岸3A			
9:12	516	8		シノリガモ	12					海岸3A			
9:12	516	9		シノリガモ	5					海岸3A			
9:12	516	10		オオセグロカモメ	142					海岸3A			
9:12	516	10		ワシカモメ	3					海岸3A			
9:12	516	10		シロカモメ	1					海岸3A			
9:12	516	10		ウミネコ	8					海岸3A			
9:12	516	10		カモメ	2					海岸3A			
9:12	516	11		オオセグロカモメ	118					海岸3A			
9:40	516	12		ヒメウ	6					海岸3A			
9:40	516	西端から戻る								海岸3A			
9:55	516	13		クロガモ	33					海岸3A			
9:55	516	14		クロガモ	45					海岸3A			
9:55	516	15		アカエリカイツブリ	1					海岸3A			
9:58	516	A		ウトウ	1		PD	N	右前肢骨と初列風切全部	海岸3A			
10:02	516	B		オオセグロカモメ	1(Ad)		PD	N	肩羽6枚と皮膚	海岸3A			
10:02	516	16		アカエリカイツブリ	1					海岸3A			
10:02	516	16		ホオジロガモ	2					海岸3A			
10:18	515	17		アカエリカイツブリ	2					海岸3A			
10:18	515	18		ビロードキンクロ	1					海岸3A			
10:18	515	18		ヒメウ	1					海岸3A			

10:18	515	19		クロガモ	230					海岸3A
10:27	515	20		オオセグロカモメ	2					海岸3A
10:27	515	21		ビロードキンクロ	8					海岸3A
10:27	515	22		ビロードキンクロ	2					海岸3A
10:27	515	23		ビロードキンクロ	10					海岸3A
10:27	515	24		ホオジロガモ	8					海岸3A
10:27	515	25		オオセグロカモメ	2					海岸3A
10:50	514	26		クロガモ他	546					海岸3A
10:50	514	27		クロガモ他	3,440					海岸3A
10:50	514	28		オオセグロカモメ	25					海岸3A
10:54	514	C		オオセグロカモメ	1(Ad)		PD	N	両翼、胸骨、右脚、背骨、骨盤	海岸3A
10:57	514	D		ヒメウ	1		PD	N	右次列風切1枚と雨覆2枚	海岸3A
10:57	514	29		クロガモ	100					海岸3A
10:57	514	30		ウミネコ	4					海岸3A
10:57	514	30		カモメ	1					海岸3A
10:57	514	30		オオセグロカモメ	9					海岸3A
10:57	514	31		ホオジロガモ	6					海岸3A
10:57	514	32		アカエリカイツブリ	1					海岸3A
11:25	514	E		クロガモ	1		PD	N	肩羽4枚と皮膚	海岸3A
11:30	514	33		オオセグロカモメ	33					海岸3A
11:42	514		東端終点							海岸3A
12:25	514		始点に戻る							海岸3A

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	嶋崎太郎	観察日	2011年4月30日	観察時刻	15:50 ~ 17:20	天候	晴れ
海岸名(市町村)	船泊(礼文町)		観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上からスコープを使用	

個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部

油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3~2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない

観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
15:50		1414	1	オオセグロカモメ	5					海岸のタイプ(3A)。生体、異常行動なし
15:50		1414	1	ウミネコ	15					生体、異常行動なし
15:50		1414	1	ハクセキレイ	2					生体、異常行動なし
15:50		1414	2	カモメ類	100±					上空通過
15:50		1414	3	ウミウ	9					生体、異常行動なし
15:50		1414	3	オオセグロカモメ	27					生体、異常行動なし
15:50		1414	3	ワシカモメ	2					生体、異常行動なし
15:50		1414	3	セグロカモメ	1					生体、異常行動なし
16:10		1414	4	コチドリ	5					生体、異常行動なし
16:10		1414	4	オオセグロカモメ	4					生体、異常行動なし
16:10		1414	5	オオセグロカモメ	1		ANC	M		生体、写真参照
16:10		1414	5	オオセグロカモメ	1					生体、異常行動なし
16:40		1414	6	オオセグロカモメ	1		PD	不明	頭、両翼、胸骨、両足	写真6-1
16:40		1414	6	オオセグロカモメ	1		PD	不明	両翼、胸骨	写真6-2
16:40		1414	6	オオセグロカモメ	1		PD	不明	両翼、胸骨	写真6-3
16:40		1414	6	オオセグロカモメ	1		PD	不明	頭、両翼、胸骨、両足	写真6-4
16:50		1414	7	ウミアイサ	2					生体、異常行動なし
16:50		1414	7	シノリガモ	9					生体、異常行動なし
16:50		1414	7	ハジロカイツブリ	1					生体、異常行動なし
16:50		1414	8	ウミウ	4					生体、異常行動なし
16:50		1414	8	オオセグロカモメ	6					生体、異常行動なし
16:50		1414	8	ウミネコ	30					生体、異常行動なし
16:50		1414	9	ワシカモメ	1					生体、異常行動なし
16:50		1414	9	オオセグロカモメ	1					生体、異常行動なし
16:50		1414	10	シノリガモ	4					生体、異常行動なし
16:50		1414	10	ウミアイサ	2					生体、異常行動なし
16:50		1414	10	オナガガモ	2					生体、異常行動なし
16:50		1414	10	ウミネコ	4					生体、異常行動なし

16:50		1414	11	ウミアイサ						生体、異常行動なし
16:50		1414	11	ハジロカイツブリ						生体、異常行動なし

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	嶋崎太郎	観察日	2011年4月30日	観察時刻	14:20 ~ 14:40	天候	晴れ
海岸名(市町村)		香深井(礼文町)		観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用

個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部

油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3~2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない

観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
14:20		1424	1	シノリガモ	8					海岸のタイプ(3A)。生体、異常行動なし
14:20		1424	1	ウミネコ	3					生体、異常行動なし
14:20		1424	1	オオセグロカモメ	1					生体、異常行動なし
14:20		1424	1	ハクセキレイ	1					生体、異常行動なし
14:20		1424	2	ウミウ	1					生体、異常行動なし
14:20		1424	3	コチドリ	1					生体、異常行動なし
14:20		1424	3	インシギ	1					生体、異常行動なし
14:20		1424	3	ハクセキレイ	9					生体、異常行動なし
14:20		1424	3	カワラヒワ	4					生体、異常行動なし
14:35		1424	4	ウミアイサ	2					生体、異常行動なし
14:35		1424	4	オオセグロカモメ	5					生体、異常行動なし
14:35		1424	4	ウミネコ	17					生体、異常行動なし
14:35		1424	5	オオセグロカモメ	20±					生体、異常行動なし
14:35		1424	5	ウミネコ	60±					生体、異常行動なし

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	嶋崎太郎	観察日	2011年4月30日	観察時刻	13:25 ~ 13:30	天候	晴れ
海岸名(市町村)	津軽町(礼文町)		観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用	

個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部
 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3~2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない

観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
13:25		1425	1	ウミネコ	3					海岸のタイプ(5)。生体、異常行動なし
13:25		1425	1	オオセグロカモメ	1					生体、異常行動なし
13:25		1425	1	ハクセキレイ	1					生体、異常行動なし
13:25		1425	1	スズメ	7					生体、異常行動なし

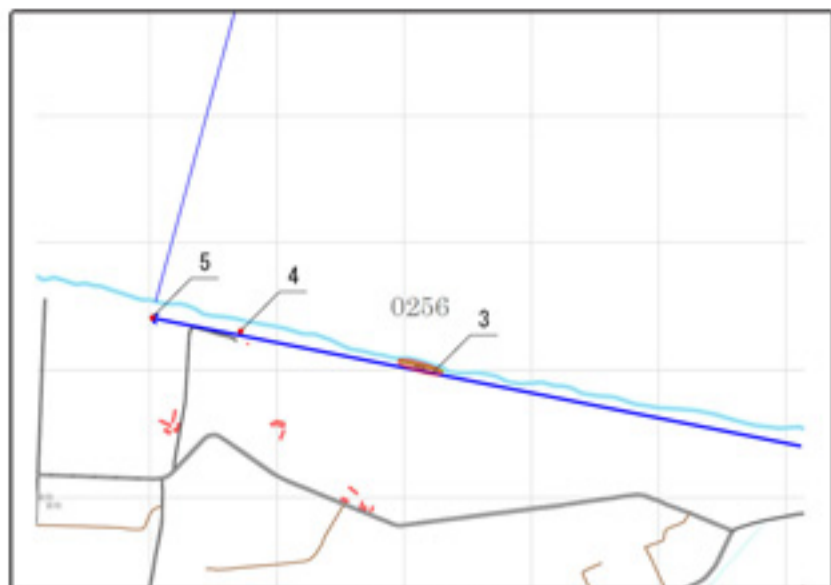


图0256

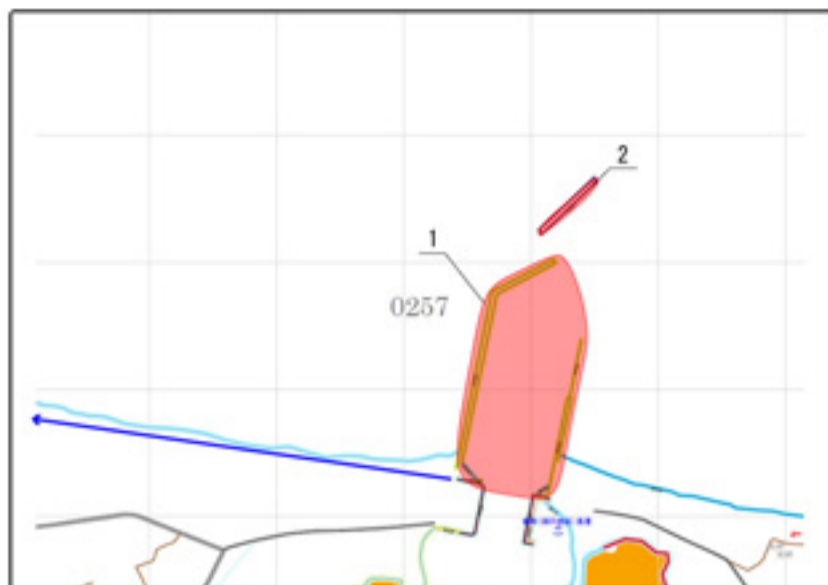


图0257

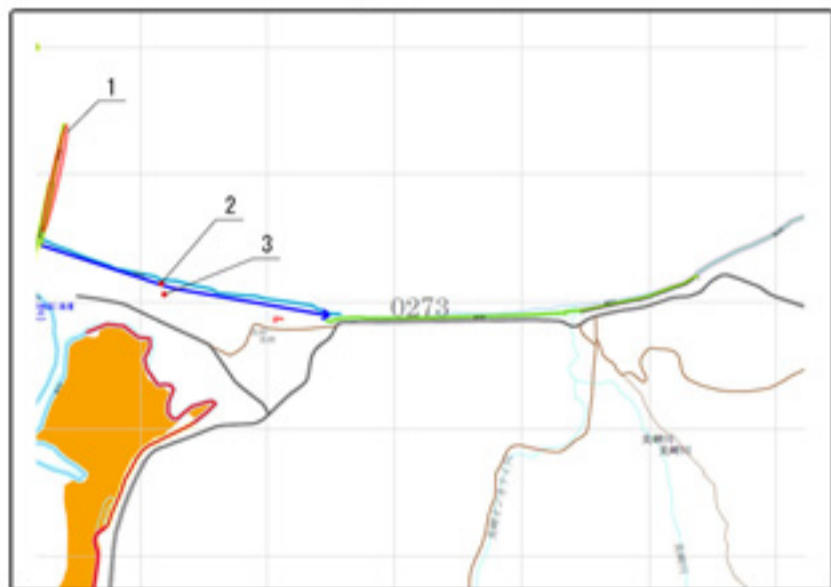


图0273



图0285A



图0285B

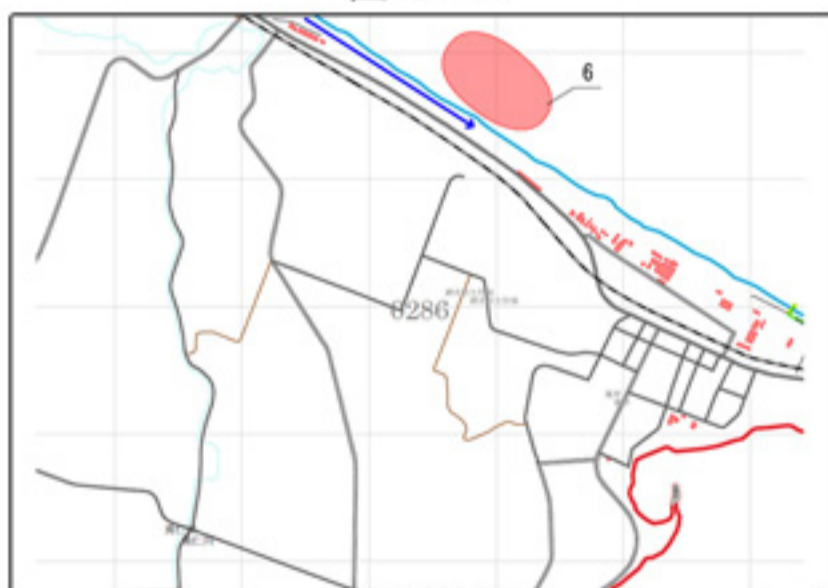


图0286A

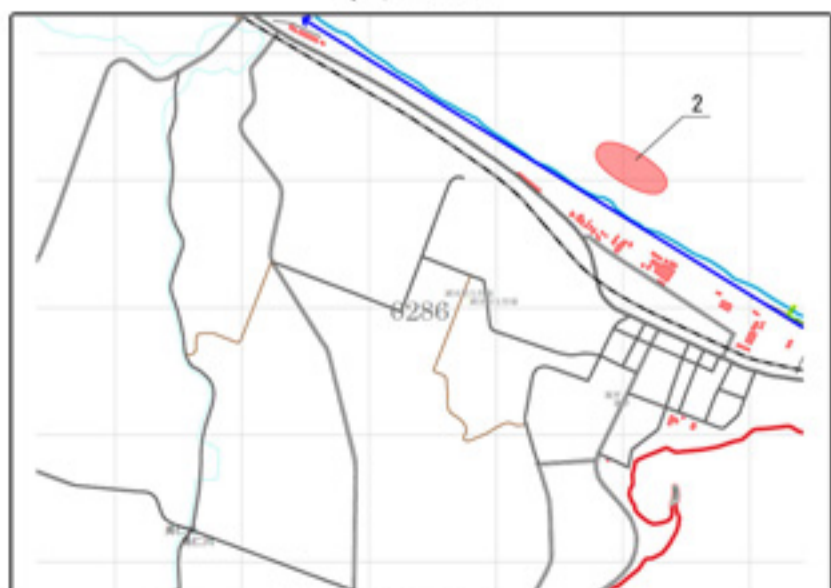


图0286B



图0287A

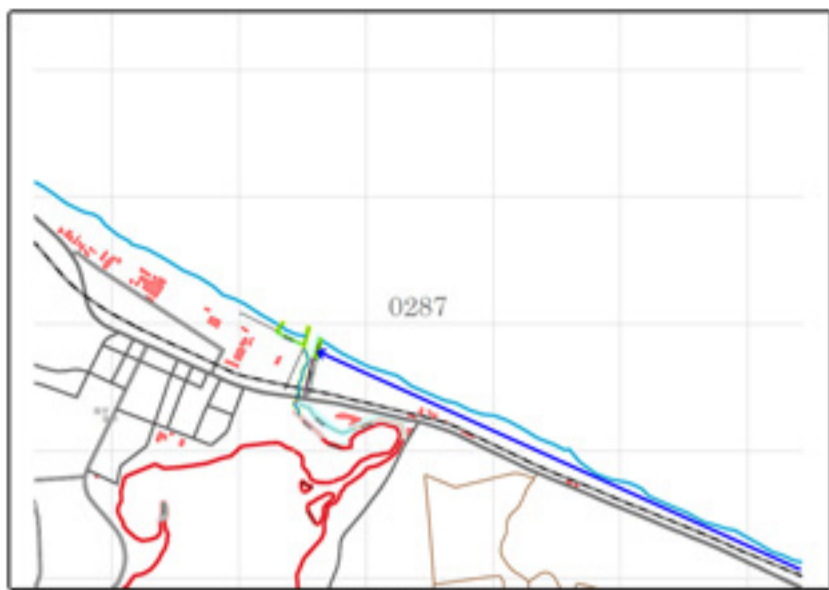


图0287B

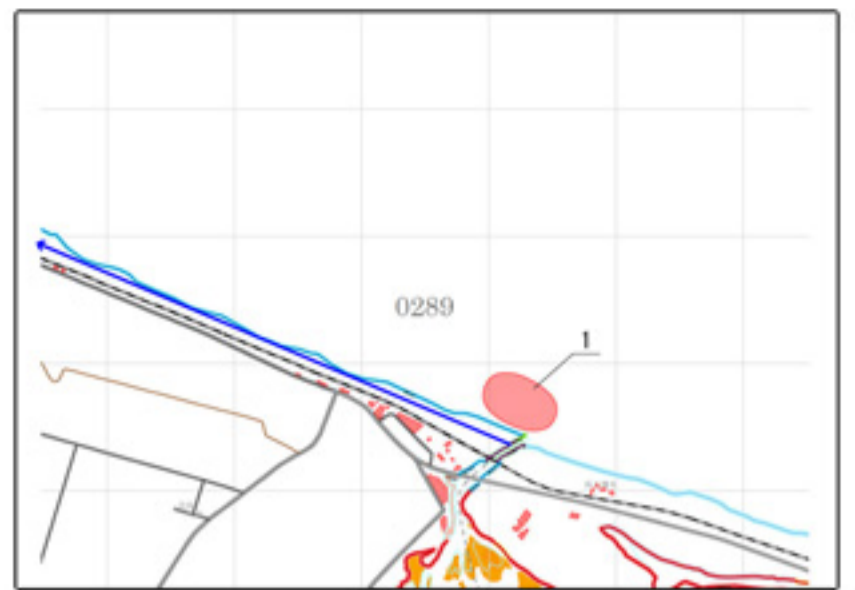


图0289A

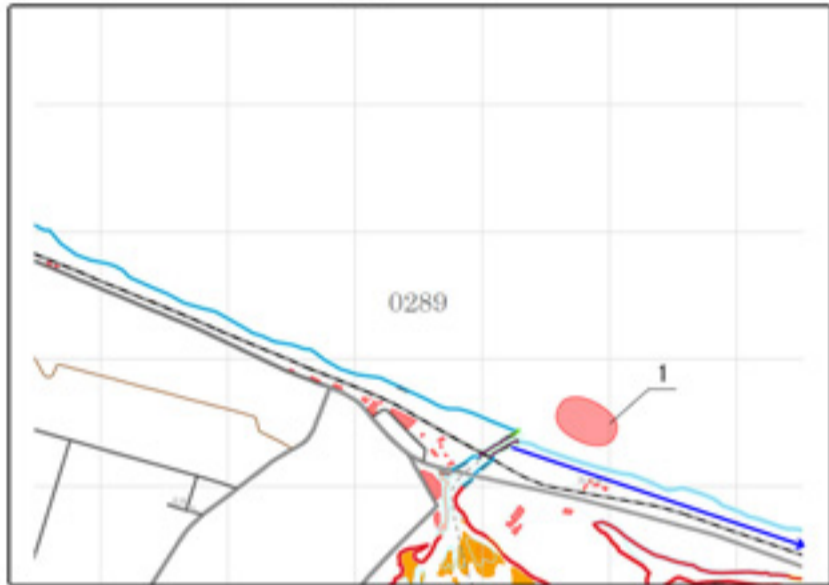


图0289B



图0292

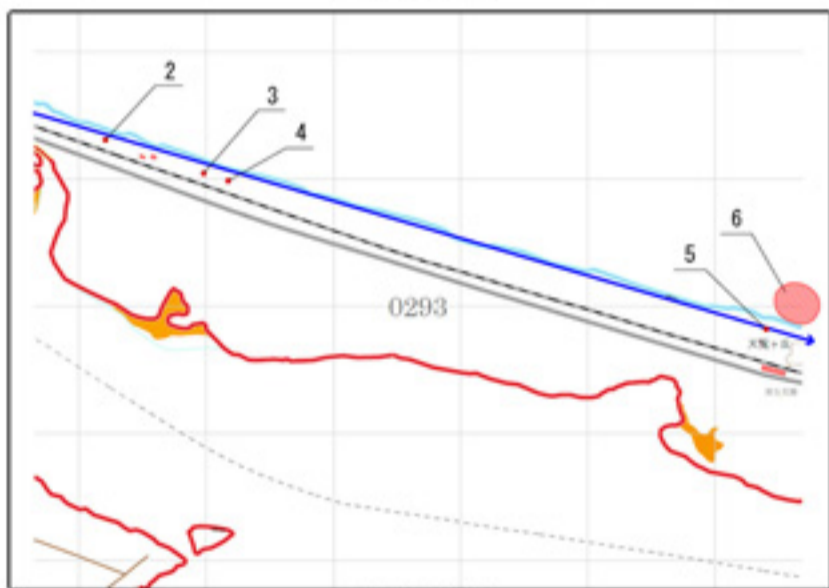


图0293

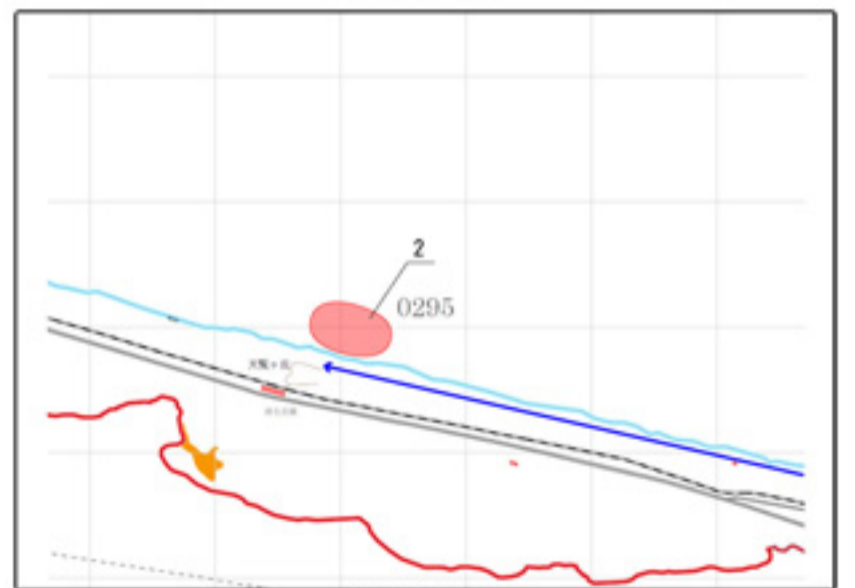


图0295

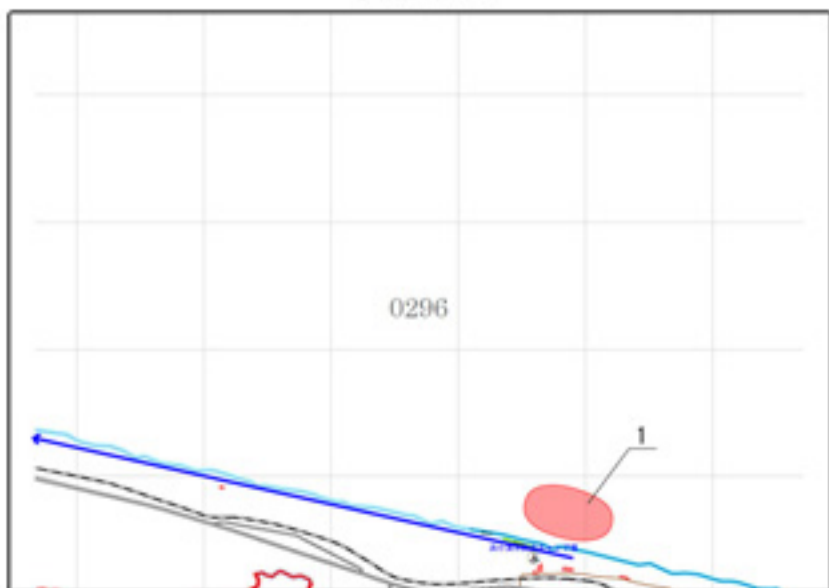


图0296



图0300

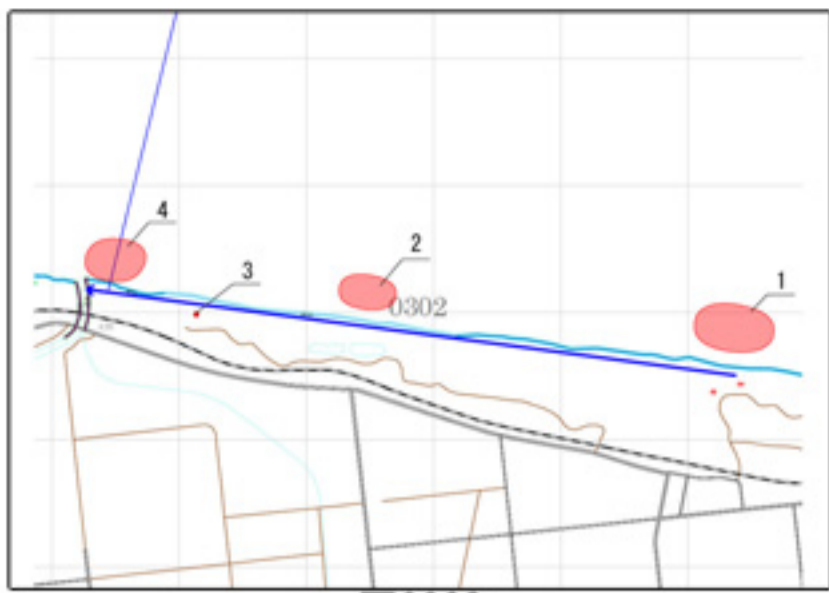


图0302

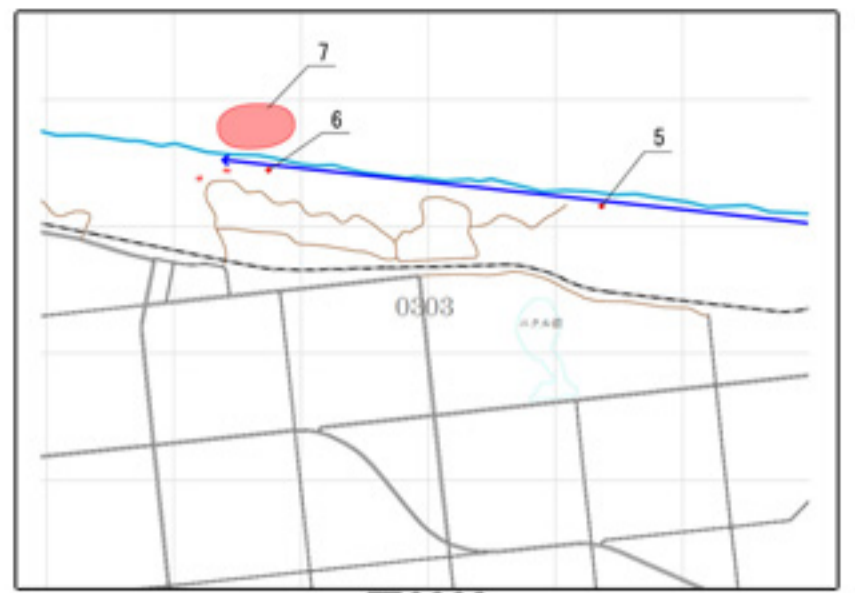


图0303

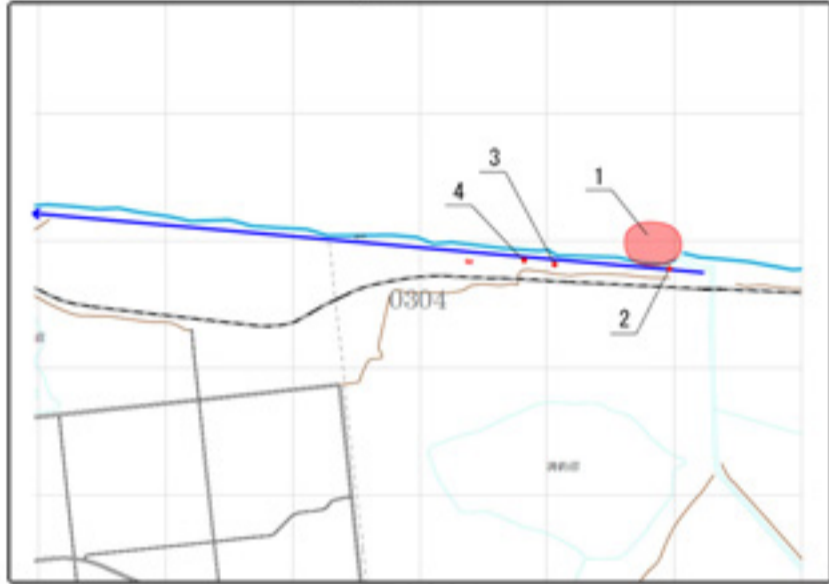


图0304

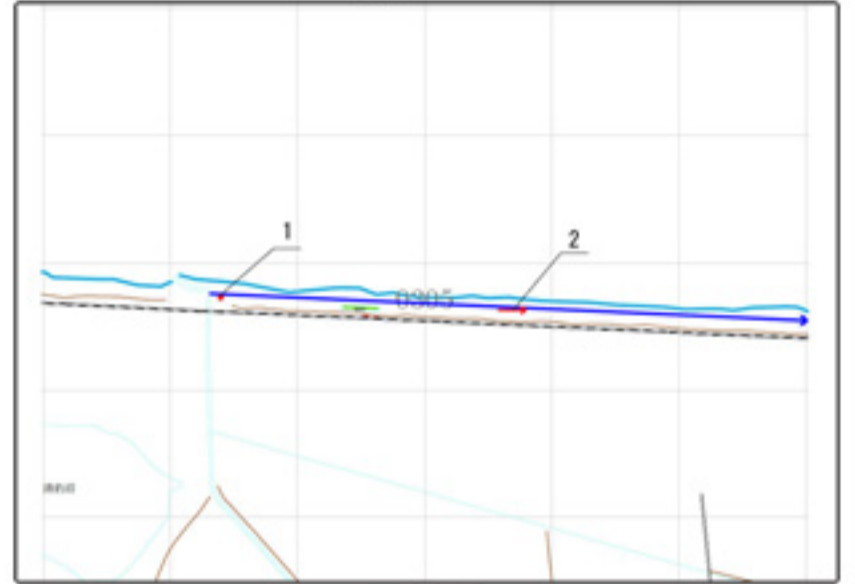


图0305

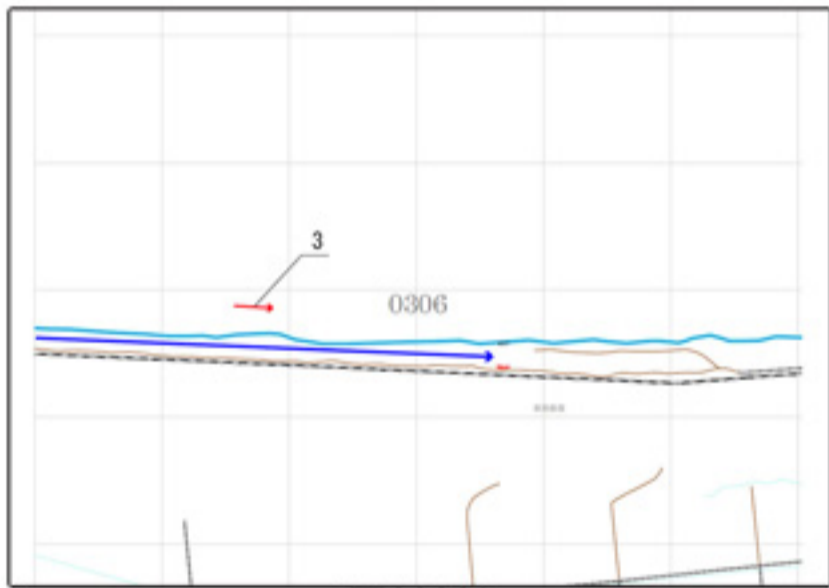


图0306A

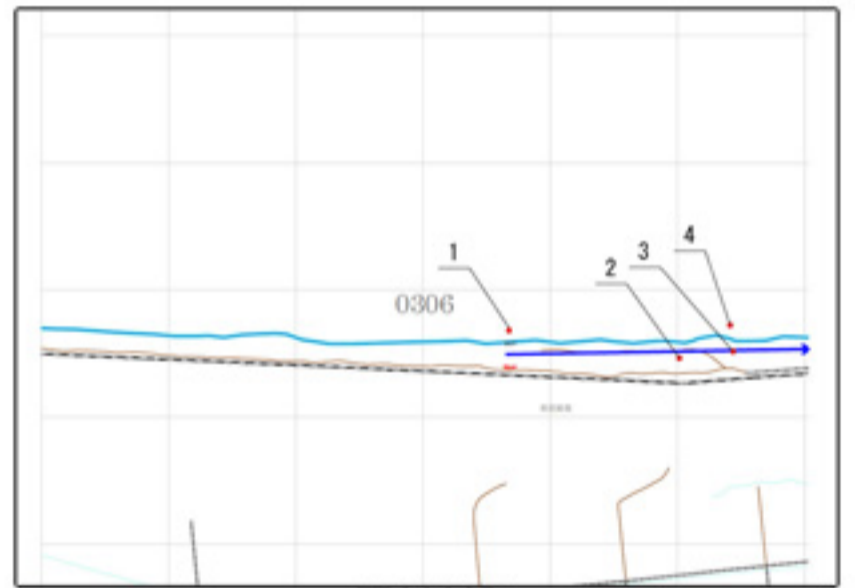


图0306B

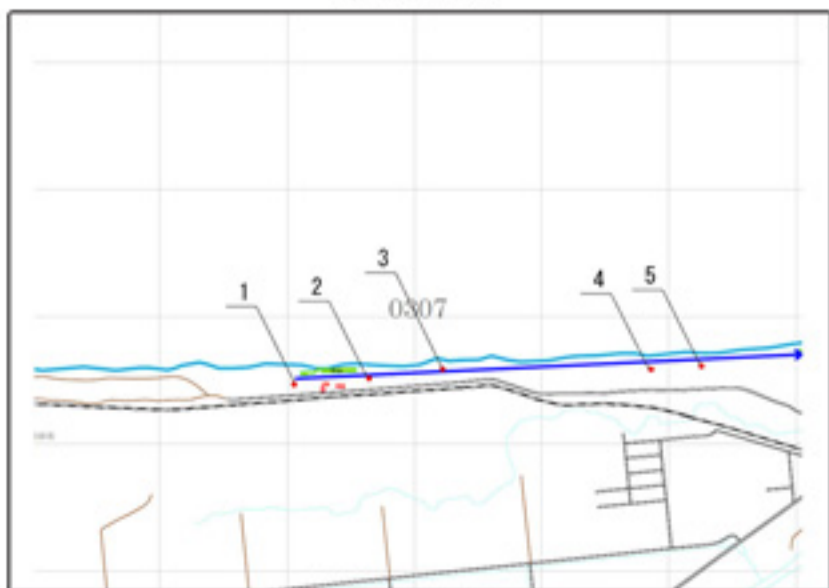


图0307A

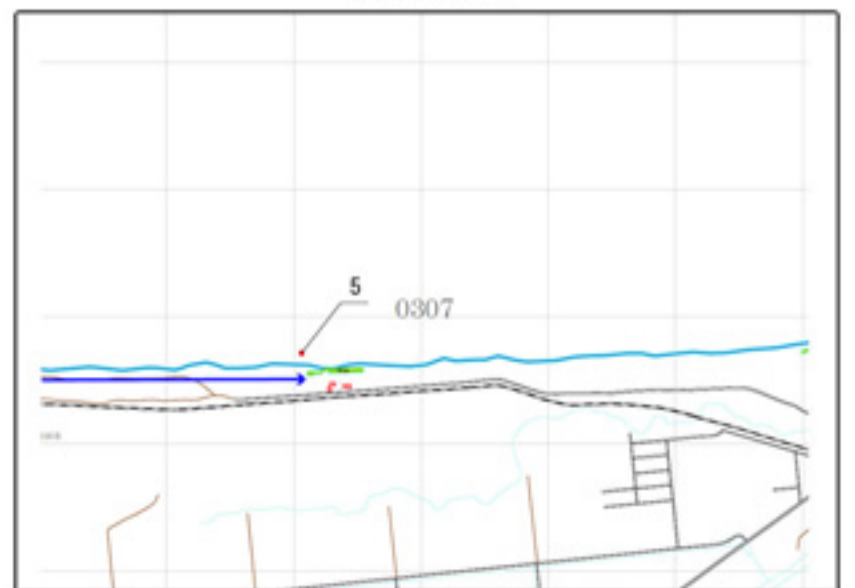


图0307B

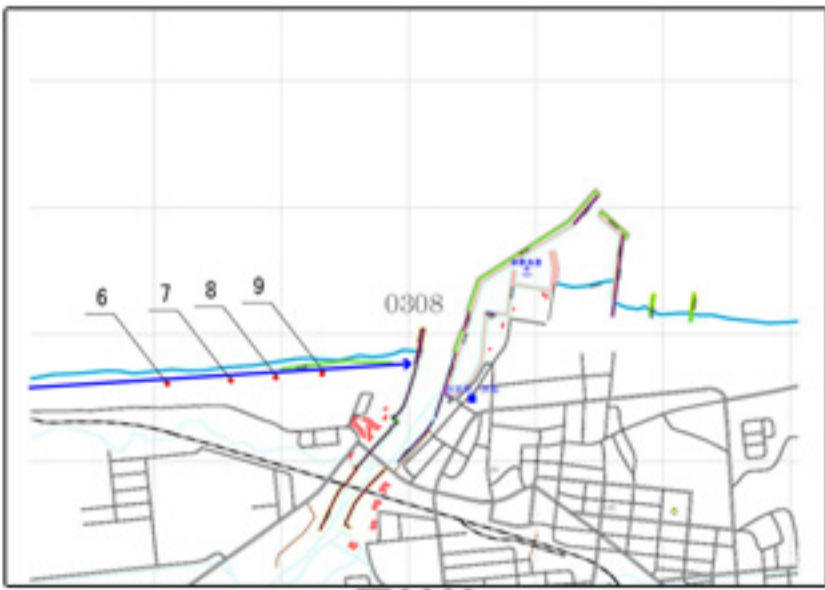


图0308

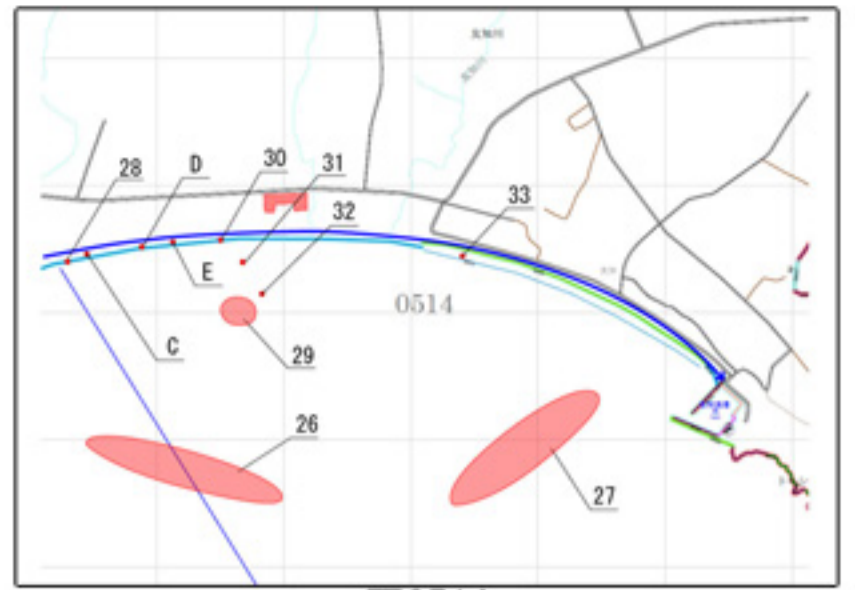


图0514

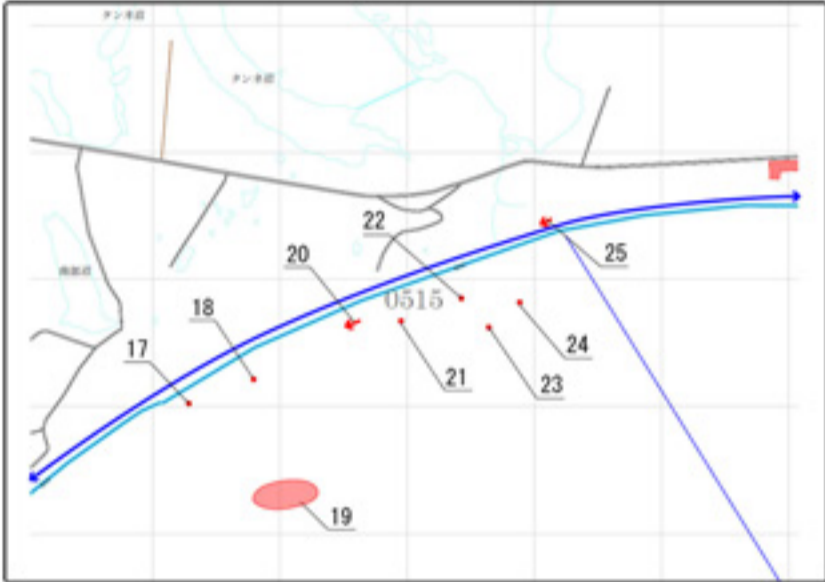


图0515

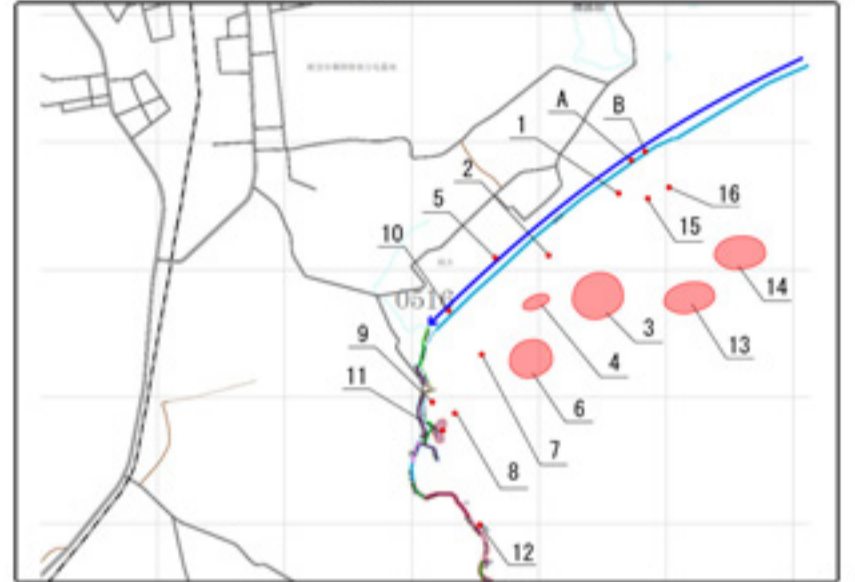


图0516

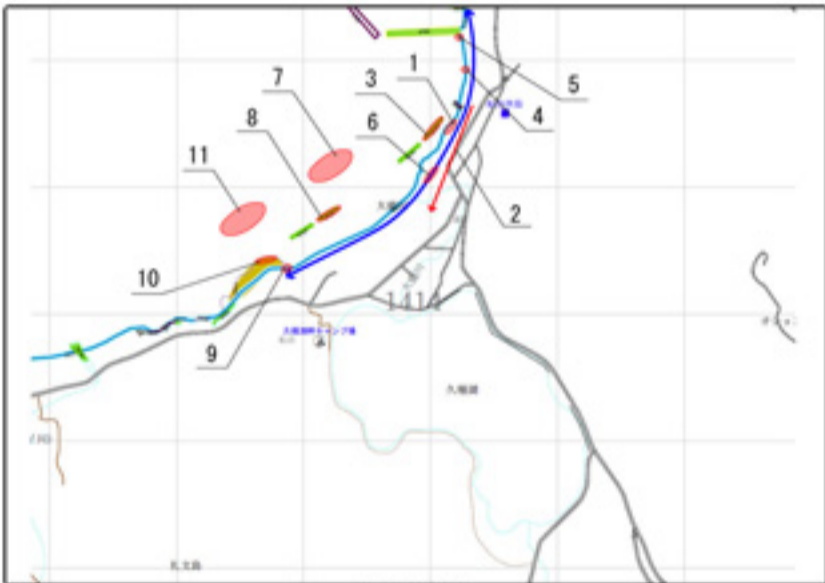


图1414

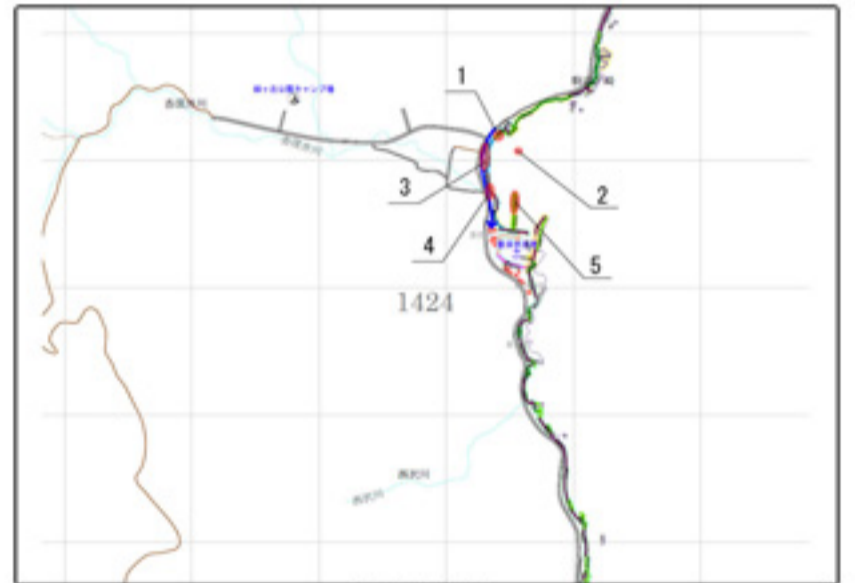


图1424

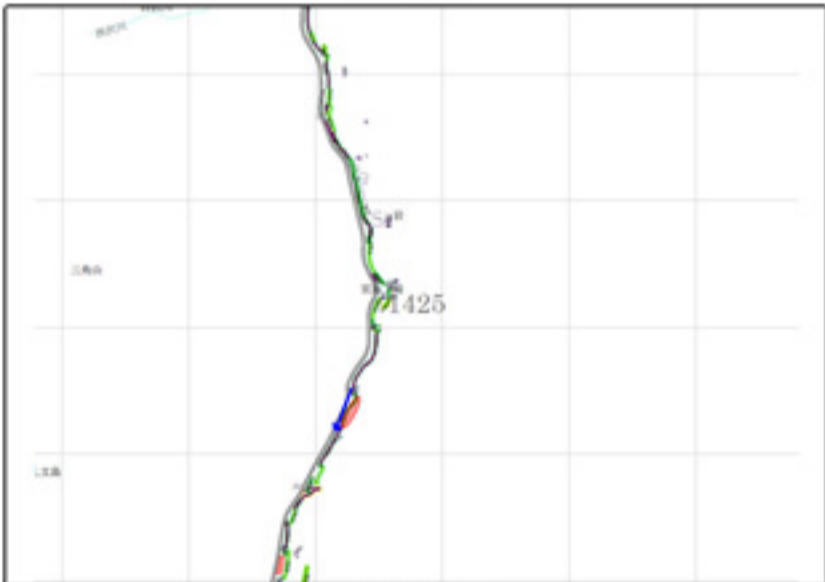


图1425



图0308-6



图1414-5

一斉海岸調査 2011 まとめ

日本野鳥の会オホーツク

2006年の春、世界自然遺産登録地・知床のウトロ側を中心とした海岸に、重油に汚染された5,600羽もの海鳥の死体が漂着しているのが見つかりました。

この惨事を経験した仲間たちから「定期的な海岸調査が必要」との声が多く集まり、たくさんの方々のご協力を得て、毎年4月に一斉海岸調査を続けています。

【調査結果概要】

海岸調査はオホーツク海側（オホーツク総合振興局：能取湖～斜里町前浜）のほか、日本海側（宗谷総合振興局）、太平洋側（根室振興局）の3振興局5市町村の海岸で行われた。

このうちオホーツク管内では、油が付着したハシブトウミガラスの死体1羽（斜里町）、ドラム缶17個（斜里町1、小清水町8、網走市8）が確認された。道北地域の礼文町では、油が付着したオオセグロカモメの生体1羽が確認された。

一斉海岸調査はこれまでに6回行われており、初年度の2006年4月には宗谷管内から釧路管内にかけて調査が行われ、そのうち稚内市から小清水町にかけて油汚染鳥および油の漂着が多数確認された（斜里町では5,500羽以上の油汚染鳥が漂着）。また2007～2010年の調査では、オホーツク管内、石狩管内、後志管内、渡島管内で油が付着した海鳥の死体や羽毛、流氷、タールボール等が確認されている。

なお、本年は3月11日に発生した東日本大震災を受けて、しばらくの間、不要不急の連絡を自粛するなどしたため、十分な広報活動ができず、参加者数は昨年までに比べて大幅に減少した。

【調査日および調査参加者数】

調査日：2011年4月1日～30日（30日間、調査日数は任意）

※この間、4月16日に浜小清水海岸において、第3回目となる「海岸調査講習会」を実施した。

参加者数：14名（小笠原久美子、奥田和子、奥田健次、川崎里実、川崎康弘、黒沢信道、黒沢優子、嶋崎太郎、多賀憲雄、寺田紋子、中瀬愛、舟生憲幸、渡辺恵、渡辺義昭：50音順、敬称略。上記講習会参加者含む）

【調査地数】

全 15 調査地 調査総延長距離 56km

- ・オホーツク管内：網走市（4 地点）、小清水町（5 地点）、斜里町（2 地点）
- ・根室管内：根室市（1 地点）
- ・宗谷管内：礼文町（3 地点）

【調査地別油関係漂着物】

- ・能取湖口左岸（網走市：4 月 9 日） ドラム缶 6 個
- ・能取湖湖口右岸（網走市：4 月 14 日） ドラム缶 2 個
- ・止別駅～止別川右岸（小清水町：4 月 6 日） ドラム缶 1 個
- ・ウエンベツ川左岸～止別駅（小清水町：4 月 13 日） ドラム缶 4 個
- ・濤沸湖口～小清水原生花園（小清水町：4 月 14 日） ドラム缶 3 個
- ・斜里町前浜（斜里町：4 月 25 日） 油が付着したハシブトウミガラス死体 1 羽
- ・斜里町前浜（斜里町：4 月 25 日） ドラム缶 1 個
- ・船泊（礼文町：4 月 30 日） 油が付着したオオセグロカモメ生体 1 羽

調査にご協力くださった皆さまへ、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2012 年の調査日程は

4 月 1～30 日です。

今年もご協力をお願い致します。